

2ch馴れ初め系・感動系YouTubeチャンネル(裏切り・スカッと系)

タイトル:「“婚約者に裏切られた日”に、亡き母から“手紙”が届いた」

①主人公

30歳／会社員。責任感が強く、恋にも真面目。母を早くに亡くし、支えを求めて婚約していた。

②相手キャラ

婚約者(外面は良いが裏では冷酷)／亡き母(生前に残した手紙が物語の鍵)。

③物語の方向性

衝撃 × 感動 × 再生

絶望のタイミングで“母の手紙”という希望の象徴が届き、主人公が立ち直る構図。感情の振れ幅が大きく、離脱率が極めて低い。

④Hook(導入3秒)

「婚約者に裏切られたその日、ポストに“母の筆跡”が届いていた——。」

タイトル

“婚約者に裏切られた日”に、亡き母から“手紙”が届いた

Hook(導入3秒)

1: 名無しさん@おーぷん(イチ)
なあ、聞いてくれ。

婚約者に裏切られた“その夜”、

ポストにあったんだ。
—10年前に亡くなった母の字で書かれた封筒が。

一瞬で、時間が止まった。

...信じられるか？
俺、自分の頭がおかしくなったのかと思った。

2: 名無しさん@おーぶん
なにそれ...ホラー展開か？kwsks。

【起パート】

3: 名無しさん@おーぶん(イチ)
俺、30歳。
普通の会社員。
母を10年前に亡くして、ずっと一人だった。

仕事、家、寝る。
そんな毎日をただ繰り返してた。

4: 名無しさん@おーぶん(イチ)
そんなある日、
会社の飲み会で彼女と出会ったんだ。

名前は、美咲。
よく笑う人で、気づけばこっちまで笑ってた。

帰り道、偶然ふたりきりになって—

「この道、私も通るんです」

それだけで、心臓が跳ねた。

5: 名無しさん@おーぶん
青春かよw

6: 名無しさん@おーぶん(イチ)
そこからは早かった。
仕事終わりに食事、休日はドライブ。
彼女の横顔を見てるだけで、時間が止まる感じだった。

俺、母さんの仏壇に報告したんだ。

「母さん、俺、幸せかもしれない」

7: 名無しさん@おーぷん
フラグ立ったな、イチw

8: 名無しさん@おーぷん(イチ)
.....だよな。
幸せって、いつも終わりが見えないから怖いんだ。

結婚式まであと1ヶ月。
でも、美咲の笑顔が、少しずつ減っていった。

スマホを見せなくなって、
目を合わせても、すぐ逸らす。

胸の奥が、ギシギシと軋んだ。

【承パート】

9: 名無しさん@おーぷん(イチ)
結婚式まで、あと1ヶ月。
打ち合わせの日も、彼女のスマホが気になって仕方なかった。

笑ってる。でも、どこか上の空。
俺が話しても、返事が遅い。

...もしかして、もう俺のこと、好きじゃないのか？

10: 名無しさん@おーぷん
あー、やな予感しかしねえなそれ。

11: 名無しさん@おーぷん(イチ)
ある日、会社の同僚に言われたんだ。

「お前の婚約者、この前、部長と一緒にいたぞ」

冗談みたいに笑いながら言ったその一言が、
心に突き刺さった。

美咲が、部長と...？
頭の中が真っ白になった。

12: 名無しさん@おーぶん
うわ、そっち系か...

13: 名無しさん@おーぶん(イチ)
夜。
彼女のスマホが、テーブルに置きっぱなしだった。
画面が一瞬、光った。

—「今日もありがとう。また来週♡」

送信者、部長。

指先が冷たくなって、呼吸が止まった。
心臓の奥が、ギシッと音を立てた気がした。

14: 名無しさん@おーぶん
...終わったな。

15: 名無しさん@おーぶん(イチ)
その夜、眠れなかった。
電気もつけずに、天井を見てた。
暗闇の中で、あのメッセージだけが光ってた。

“ありがとう”って、なんだよ。
“また来週”って、どういう意味だよ。

怒りよりも先に、悲しみが来た。
なんで、こんなに静かなんだろうって。

16: 名無しさん@おーぶん(イチ)
翌日、彼女を呼び出した。
近くのカフェ。
待ってる間、心臓の音が耳の奥で鳴ってた。

彼女が来て、席に着く。
俺はスマホをテーブルに置いた。

「これ、どういうこと？」

17: 名無しさん@おーぷん
あー...修羅場確定。

18: 名無しさん@おーぷん(イッチ)
美咲は、一瞬で顔色が変わった。
でも、すぐに作り笑いした。

「違うの、悠真。誤解で——」
「じゃあ、説明してくれよ」
「.....言えないの」

その“言えない”が、全部を物語ってた。

店のBGMがやけにうるさく感じた。
俺は、ただ「もういい」とだけ言って立ち上がった。

19: 名無しさん@おーぷん(イッチ)
外に出た瞬間、風が冷たかった。
どんなに寒くても、涙は止まらなかった。

駅のホームで、何本も電車を見送った。
どの電車に乗っても、行き先は同じな気がした。
“何もない場所”ってやつだ。

20: 名無しさん@おーぷん
イッチ...きついな、それは。

21: 名無しさん@おーぷん(イッチ)
家に帰ると、部屋がやけに広く感じた。
電気もつけずに、ただ床に座ってた。

母の写真が、静かに微笑んでた。
優しい顔。
もう、二度と声を聞けない顔。

「母さん、俺、間違ってたのかな」

答えのない独り言が、壁に溶けた。

22: 名無しさん@おーぷん(イチ)
気づけば、夜中の2時。
窓の外は真っ暗で、
世界の音が全部止まったみたいだった。

ベランダに出ると、風が頬を刺した。
涙が乾いて、少しだけ視界がにじんだ。

その時だった。

—ポストの中で、“カサッ”と音がした。

23: 名無しさん@おーぷん
え、今このタイミングで！？

24: 名無しさん@おーぷん(イチ)
胸の鼓動が速くなる。
こんな時間に、誰かがポストに？
そんなはず、ない。

でも確かに、何かが入った音がした。
恐る恐るポストを開けると—
そこに、一通の封筒があった。

25: 名無しさん@おーぷん(イチ)
宛名には、
“悠真へ”。

見覚えのある文字。

差出人の欄には、
“母・真理子”と書かれていた。

...息が詰まった。

26: 名無しさん@おーぷん
うそだろ...母ちゃん亡くなってるんだよな？

27: 名無しさん@おーぷん(イチ)
手が震えて、封筒を落としそうになった。
拾い上げて、光に透かす。
中には、手紙が一枚。

“母の筆跡”。

10年前、入院していたときに書いていた文字と、まったく同じだった。

心臓が早鐘を打つ。
頭の中で“どうして”が何度もループした。

28: 名無しさん@おーぷん(イチ)
「誰かのいたずら...？」
違う。こんな丁寧な筆跡、母さんしか知らない。

震える指で、そっと封を切った。
便箋を広げた瞬間、胸が詰まった。

そこには、こう書かれていた。

「この手紙は、あなたが“誰かに裏切られた時”に届くように頼みました。」

29: 名無しさん@おーぷん
うわ、鳥肌。

30: 名無しさん@おーぷん(イチ)
文字を追うたびに、涙が止まらなくなった。

「誰かを信じることは、時にあなたを傷つけます。
でも、それでも信じられる人でいてください。」

部屋の空気が温かくなった気がした。
たぶん、それは“母の声”だった。

31: 名無しさん@おーぷん(イチ)

「あなたが誰かを心から愛せたなら、それだけで私は誇りです。」

母さんの筆跡が、滲んで見えた。
紙を握る手が震えた。

「母さん.....ありがとう.....」

声に出した瞬間、
堰が切れたように、涙が溢れた。

32: 名無しさん@おーぶん
(´;ω;`)これは泣くわ...

33: 名無しさん@おーぶん(イチ)
あの夜のことは、今でも忘れられない。
母さんの言葉が、心の奥で灯をともした。

悲しみも、裏切りも、全部包み込むように。

「母さん、俺.....もう少し、頑張ってみるよ。」

ポストの音が、静かに返事した気がした。

【転・結パート】

34: 名無しさん@おーぶん(イチ)
母の手紙を読み終えたあと、
朝が来るまで、俺はずっと泣いてた。

涙が止まらなかったのは、悲しみじゃない。
“生きろ”って言われた気がしたからだ。

35: 名無しさん@おーぶん
イチ...母ちゃん言葉、強すぎる。

36: 名無しさん@おーぶん(イチ)
数日後。
俺は、美咲に会う決意をした。

真実を聞かなきゃ、前に進めない。
逃げたままじゃ、母さんに顔向けできない気がした。

37: 名無しさん@おーぷん(イチ)
待ち合わせたのは、最初にデートした喫茶店。
コーヒーの香りが、記憶の底をくすぐる。

彼女は、少しやつれてた。
でも、瞳はどこか澄んでいた。

38: 名無しさん@おーぷん(イチ)
俺「これで最後にする。
聞かせてくれ。あの日のこと、全部」

美咲は小さく頷いて、バッグから小さな録音機を出した。

「これ、部長との会話。
私、セクハラの証拠を集めてたの。」

39: 名無しさん@おーぷん
え...マジか、それ。

40: 名無しさん@おーぷん(イチ)
美咲「あなたを巻き込みたくなかった。
でも、気づかれたくもなかった。
だから、全部バレて終わりにしようと思ってた。」

俺は、何も言えなかった。
怒る気持ちも、責める気持ちも消えてた。

41: 名無しさん@おーぷん(イチ)
「.....じゃあ、あのメッセージも」
「釣り。誘い出すため。
あなたに見せるつもりはなかった」

沈黙。
カップの中のコーヒーが、波を描いた。

42: 名無しさん@おーぷん
展開が深い...裏切りじゃなかったのか。

43: 名無しさん@おーぶん(イチ)

「でもね」

美咲は、少し笑った。

「ポストの手紙、あれは私が入れたの」

「……は？」

言葉の意味が分からなかった。

まるで世界が一瞬止まったみたいだった。

44: 名無しさん@おーぶん(イチ)

「10年前、ボランティアでお母さんの病室に通ってた。

そのとき、“もしこの子が本当に傷ついた時、これを渡して”って託されたの。」

俺「……母さんに？」

美咲「うん。

でも渡すタイミングが怖くて、ずっとしまってた。

あなたが壊れそうな顔をしてたあの日、“今だ”と思ったの。」

45: 名無しさん@おーぶん

全部、繋がった…。

46: 名無しさん@おーぶん(イチ)

「じゃあ、最初から…俺を知ってた？」

「名前は聞いてた。でも、会うとは思ってなかった。

偶然同じ会社で、びっくりしたよ。」

俺「偶然……ね」

美咲「運命って言ってもいい？」

彼女は、少し泣き笑いした。

47: 名無しさん@おーぶん(イチ)

あの日の冷たい夜と、今の彼女の目が、重なった。

全部嘘だったわけじゃない。

でも、全部真実でもなかった。

心がぐしゃぐしゃになって、

それでも不思議と、怒りはなかった。

48: 名無しさん@お一ぶん(イチ)
「.....ありがとう。
手紙、渡してくれて。」
「怒らないの？」
「怒る理由が見つからない。
母さんの想いを繋いでくれたんだろ？」

彼女は静かに泣いた。
涙が、カップの中に落ちた音がした。

49: 名無しさん@お一ぶん
泣けるわ...
こういう“赦し”の話、弱いんだよな。

50: 名無しさん@お一ぶん(イチ)
それから、しばらく無言だった。
店を出る時、彼女が言った。

「これで、本当にお別れだね。」
俺「うん。でも、ありがとう。」

交差点の信号が青に変わる。
彼女は傘を差して歩き出した。

背中が小さく見えた。

51: 名無しさん@お一ぶん(イチ)
家に帰って、母の手紙を額に入れた。
一番光が当たる場所に。

「母さん、俺、ちゃんと生きるよ」

その夜、初めてぐっすり眠れた。

52: 名無しさん@お一ぶん
(´;ω;`)優しいラストきたな...

53: 名無しさん@お一ぶん(イチ)
数ヶ月後。

俺は会社を辞めた。
小さなカフェを開くために。

名前は、“マリコ”。
母さんの名前だ。

54: 名無しさん@おーぷん(イチ)
毎朝コーヒーを淹れるたび、
あの手紙の言葉を思い出す。

「信じられる人でいてください。」

誰かのためじゃなく、自分のために。

55: 名無しさん@おーぷん(イチ)
ある雨の日、ドアベルが鳴った。
顔を上げると、美咲が立っていた。

「……来ちゃった」
「いらっしやい」

少しの沈黙。
でも、不思議と心は静かだった。

56: 名無しさん@おーぷん(イチ)
俺「何にします？」
美咲「苦くないやつ」
俺「じゃあ、カフェラテだな」

泡を立てながら、
彼女の視線が壁の手紙に止まった。

57: 名無しさん@おーぷん(イチ)
美咲「まだ飾ってくれてるんだね」
俺「うん。ここが一番明るいから」
美咲「そっか」

彼女は微笑んだ。
あの日とは違う、少し大人の笑顔だった。

58: 名無しさん@おーぶん
再会、静かでいいな…。

59: 名無しさん@おーぶん(イチ)
帰り際、彼女が一枚のメモを置いた。

“マリコ”のコーヒー、やさしい味がした。
あの日の私を、少し許せた気がする。」

それだけ書いてあった。

俺は笑って、静かに店の灯りを落とした。

60: 名無しさん@おーぶん(イチ)
シャッターを閉める時、
夜風が優しく頬を撫でた。

その風の中に、
「よく頑張ったね」って声が聞こえた気がした。

…もちろん、空耳だ。

でも、それでいい。

61: 名無しさん@おーぶん(イチ)
母さん。
俺、優しいままでいるよ。
あなたの言葉通りに。

今日も明日も、
この店で、誰かの心を温めながら。

62: 名無しさん@おーぶん
完璧なラスト。
“赦しと再生”、これぞ名作。

63: 名無しさん@おーぶん
「裏切り」が「優しさ」に変わるストーリー。
こういうのが、一番人を泣かせるんだよ。

64: 名無しさん@おーぷん
イッチ、ありがとう。
母ちゃんも、きっと笑ってるわ。

(了)